

Ver.1.0

(表面)



Ver.2.0

(表面)



Ver.3.0

(表面)



(裏面)

港-DATA 見本

所在地：大分県別府市
 港コード：JPBPU
 港の形状：沿岸港
 主な利用：定期フェリー、旅客船
 管理者：大分県

別府土木事務所HPはこちら

別府港は大分県の中央に位置する別府湾の西奥部にあり、昭和26年(1951年)に重要港湾の指定を受けました。本港は、浜輪地区、北浜地区、約ヶ浜地区、餅ヶ浜地区、石垣地区、上人ヶ浜地区、亀川地区、隅ノ江地区の8地区からなり、別府市の海岸沿いほぼ全域に広がる港湾です。中でも石垣地区は、定期フェリーやクルーズ船が寄港することから「別府国際観光港」とも呼ばれています。

石垣地区の第4埠頭は平成23年(2011年)にクルーズ船専用の埠頭として供用開始され、現在では最大14万トン級客船の扱坪が可能となっています。さらに、耐震強化岸壁となっており、震災時には救援物資の緊急輸送にも対応します。

また、平成20年(2008年)に「みなとオアシス別府港」が認定登録され、住民参加による地域振興の取り組みが行われています。

明治4年(1871年)に別府港(橋港)が完成し、平成33年(2021年)で150年を迎えます。

(裏面)

港-DATA 見本

所在地：大分県別府市
 港コード：JPBPU
 港の形状：沿岸港
 主な利用：定期フェリー、旅客船
 管理者：大分県

別府土木事務所HPはこちら

別府港は大分県の中央に位置する別府湾の西奥部にあり、昭和26年(1951年)に重要港湾の指定を受けました。本港は、浜輪地区、北浜地区、約ヶ浜地区、餅ヶ浜地区、石垣地区、上人ヶ浜地区、亀川地区、隅ノ江地区の8地区からなり、別府市の海岸沿いほぼ全域に広がる港湾です。中でも石垣地区は、定期フェリーやクルーズ船が寄港することから「別府国際観光港」とも呼ばれています。

石垣地区の第4埠頭は平成23年(2011年)にクルーズ船専用の埠頭として供用開始され、現在では最大14万トン級客船の扱坪が可能となっています。さらに、耐震強化岸壁となっており、震災時には救援物資の緊急輸送にも対応します。

また、平成20年(2008年)に「みなとオアシス別府港」が認定登録され、住民参加による地域振興の取り組みが行われています。

明治4年(1871年)に別府港(橋港)が完成し、平成33年(2021年)で150年を迎えます。

(裏面)

港-DATA 見本

所在地：大分県別府市
 港コード：JPBPU
 港の形状：沿岸港
 主な利用：定期フェリー、旅客船
 管理者：大分県

別府土木事務所HPはこちら

別府港は大分県の中央に位置する別府湾の西奥部にあり、昭和26年(1951年)に重要港湾の指定を受けました。本港は、浜輪地区、北浜地区、約ヶ浜地区、餅ヶ浜地区、石垣地区、上人ヶ浜地区、亀川地区、隅ノ江地区の8地区からなり、別府市の海岸沿いほぼ全域に広がる港湾です。中でも石垣地区は、定期フェリーやクルーズ船が寄港することから「別府国際観光港」とも呼ばれています。

明治4年(1871年)に別府港(橋港)が完成し、その後関西、西国、中置地方との航路が相次いで開設されました。現在では定期フェリーの就航や大型クルーズ船の寄港は石垣地区に移っていますが、別府港は物流・人流の拠点として地域経済と市民生活、観光振興を支え、今も昔も「九州の東の玄関口」として重要な役割を果たしています。

また、平成20年(2008年)に「みなとオアシス別府港」が認定登録され、住民参加による地域振興の取り組みが行われています。

明治4年(1871年)に別府港(橋港)が完成し、平成33年(2021年)で150年を迎えます。